



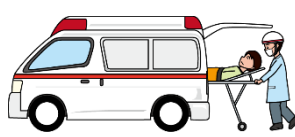
薩摩川内市集団救急事故訓練に参加



救急看護認定看護師 4階西病棟師長 平

9月8日、集団救急事故訓練として、「国民体育大会競技場において、階段を移動中の観戦者が転倒し将棋倒しとなり多数の傷病者が発生した」との設定で行われ、我々は、現場に派遣された医療班として参加しました。

トリアージは救急隊員が行いましたが、多数の傷病者の情報が錯綜し、現場の指揮本部は、搬送順位や搬送先の選定など混乱も見られました。医療班もどのような活動を行えばよいかわからない場面もありました。実際にこのような事例が起こり、院外派遣要請があった際、適切な対応が行えるよう日頃からの訓練が必要だと感じました。



院内研修



ラダーV研修：防災対策について（8/1）

講師：回復期リハビリテーション病棟主任 大迫 聡

教育委員 HCU 松浦

今後20年以内に、南海トラフ地震がかなり高い発生率で起こると言われています。今回防災・災害研修を受けて病院の耐震構造や自家発電がどれくらい持つのか、患者・職員の食料備蓄量など知らないことも多くあることに気付きました。

アクションカードのストラップの色分けの意味を再確認したり、院内にある避難用具に触れる機会もあり防災・災害の知識を深めることができました。何か起こった時に、慌てず冷静に指示・行動ができるように準備する必要があると学びました。





新人看護師基礎研修：人工呼吸器について（7/4）

講師：臨床工学課主任 宮内 隆

人工呼吸器（主にNPPV）の説明と実技指導が行われました。講師による呼吸の正常・ガス交換・換気量、酸素療法（低流量・高流量）、呼吸器（NPPV）の適応や使用方法、マスクの種類・選択基準・装着方法等の説明がありました。日本光電の協力もあり、実際に人工呼吸器に触れ、マスク装着の体験も行い、実践に活かせる有意義な研修になったと思います。

教育委員 手術室 小浦



ラダーⅡ研修：事例検討（6/1・6/22）

講師：外来副師長 片平 広美

教育委員 回復期リハビリテーション病棟 福岡

「ニーズをとらえる力」の向上をめざし、グループワーク（事例検討：看護計画、看護指示の展開）を中心に行われました。受講者の感想は、「患者の4側面から必要な情報収集を行う事が重要と再認識出来た。情報収集を行うために、患者・家族と看護師の信頼関係の構築が重要であり、患者の訴えに対して“回答”ではなく、理解と共感を示す言葉、批判を入れずに聴く、“指導する“前に患者の気持ちを聴くことが最も重要であることを学んだ”などがありました。

今回の研修では、患者を捉えるために4側面から情報収集をもとに看護展開を行い、患者の思いを認識しやる気を維持しつつ現実的な目標を共同で設定する（スモールステップ法）大切さ学ぶことができた研修となりました。



ラダーⅣ研修：レポート・小論文の書き方（8/4・8/21）

講師：川内看護専門学校 専任教員 山口 麻由美 先生

教育委員 4階東病棟 福山

レポートを書くポイント・基本構造・書く順番・文章の整合性・レポート添削について学びました。参考事例では、小論文の書き方メンタルモデルを無視した文章の見本があり、何回読んでも読みにくいことに気がきました。読み手を意識し正確に分かりやすい文章になるように心がけが必要であることを学びました。受講者からは、レポート作成やその指導は苦手分野でしたが、今回の研修で学んだことを今後実践したい、自分自身が提出するレポートや、看護学生がまとめるレポートも意識して指導していきたいとの感想がありました。



看護補助者研修：認知症患者の対応（9/7・9/20）

講師：外来副師長 片平 広美

教育委員 外来 山本

認知症の原因、4大認知症の特徴・症状についての講義と、症例2例に対してグループワークを行いました。研修を終え、「認知症患者さんは、入院していることが理解出来ずに不安な気持ちで入院しているので、患者さんと目線を合わせゆっくりと声をかけてコミュニケーションをとることを心掛け、ケアにあたりたい」との感想が多く聞かれました。



新人職員一泊宿泊研修について

日時：6月30日(金)～7月1日(土)
場所：スパランド裸・楽・良
(株) カクイックス他



教育委員会副委員長 HCU副師長 皮籠石

新人職員一泊研修に教育担当として参加しました。カクイックス工場見学では、リネン類やユニフォームなどの管理、回収・洗濯・配送について学び、使用者の安全を考慮した配慮がされていることを知りました。その後、スパランド裸・楽・良では、川内市医師会立市民病院のスタッフとして一年後「どのような職員になりたいか」をテーマに、多職種グループでマンダラチャート作成に取り組みました。入職後、緊張した日々を過ごしていたと思いますが、今回の研修でリフレッシュできたのではないのでしょうか。グループワークで作成した目標に向けて一緒に頑張っていきましょう。



カクイックス工場見学



スパランド裸・楽・良にて



美山陶遊館

陶芸作品



第19回 日本クリティカルケア看護学会 学術集会 7/1～7/2(タワーホール船堀)

3階東病棟主任 佐藤

日本クリティカルケア看護学会学術集会参加しました。コロナ渦で面会制限のある中「その人らしさ」を最大限引き出すために、看護師として家族・医療チームの架け橋となり「その人らしく生きた」と死を否定的に捉えることなく、良好な医療者・家族関係が築けた一例に出会うことができました。患者や家族の意向を近くで聞くことができるのは看護師であり、重要な役割です。看護師として患者・家族の想いを受け止め、医療チームに伝達することを強く感じたと共に再認識しました。

23「重症度、医療・看護必要度」評価者及び院内指導者研修を受講して

共催：日本臨床看護マネジメント学会 ヴェクソンインターナショナル株式会社

回復期リハビリテーション病棟主任 大迫

複雑化した看護必要度の評価を日々正しく行い、患者の状態やニーズを適切に評価し、適切なケアを提供する為に知識習得は重要です。今年、病棟に異動となり、自分の必要度に対する知識不足を実感しました。例えば「危険行動」の項目について危険行動が発生した日時のみが対象と認識していたが、1週間以内に発生した場合であっても対象にあたると学び、適切に評価がされていなかったと振り返る。今回の研修を通して、個別化されたケア提供・早期介入と予防・チーム医療の強化、また管理者として資源の最適活用、品質改善のサポートを適切に実践できるように継続的に学習していきたいと思っています。

4階東病棟 幸得

看護必要度の評価を日々正しく行い、これを用いた病棟への適正な人員配置を実現するためには、確かな知識を身につけた評価者と、院内指導者の養成が必須となっています。また、地域医療構想の実現に向けて、地域とは強い連携が求められることになります。研修では、地域に患者を紹介する際の看護サマリーにB項目の評価を含める工夫や、患者の状況を正しく反映するために看護必要度を用いた送り送りの方法など行っている事を知り、地域連携のためのマネジメントスキルを身につける事が求められていると学びました。正しく現場の評価を得るためにも、今回学んだ事をスタッフへ助言できるように努めていきたいと思っています。



<看護必要度院内研修の案内>

年1回開催の「重症度、医療・看護必要度研修」の
集合研修を10月～12月で開催します。

日程については、後日案内します。※看護師は必須となります。



マイブーム

今年4月に入職しました杉安です。私の趣味は登山で、先日も韓国岳や開聞岳に登ったばかりです。当院に入職する前は、東京に20年住んでいまして、主に関東近辺の北アルプスや尾瀬群馬新潟の山に登っていました。その中でも特に印象深い山は、燕岳（つばくろだけ）で、そこから眺める槍ヶ岳から大キレット、奥穂高岳への稜線は言葉にはあらわせない素晴らしいものがあります。そして極めつけは、燕岳の山頂に近い山小屋、燕山荘に宿泊した際に、雷鳥に遭遇したことです。2500メートル以上の高山にのみ生息している鳥で、とても凛々しい姿で昔から神の鳥とあがめられていることがその姿で分かりました。昔から人間に大事にされていたため、現在もあまり人を怖がらないことも魅力の一つです。九州にもたくさんの魅力的な山がたくさんあります。仕事に少し疲れたら山を登ってもてはいかがでしょうか。

4階西病棟 杉安



(本人撮影)



編集後記

朝晩が寒くなり、金木犀や彼岸花を見かけ、秋を感じますね。体調変化に注意し、秋ならではの楽しみを味わいながら後期も頑張っていきましょう。

(松下)